

みんなで作る 第5次海田町総合計画後期計画



説明要旨及び説明項目

【説明要旨】

第5次海田町総合計画後期計画について、現時点での計画素案や今後の取組を提示し、まちづくり推進委員のご意見をお伺いしながら今後の計画策定やまちづくりに生かしていくもの

【説明項目】

（議題1）

- I 計画策定にあたって
- II 計画策定に向けての諸分析
- III 後期計画基本方針
- IV 後期計画素案（別冊）

（議題2）

- V 計画策定に係る取組と今後のプロモーション

I 計画策定にあたって

II 計画策定に向けての諸分析

III 後期計画基本方針

IV 後期計画素案（別冊）

V 計画策定に係る取組と今後のプロモーション



● 新しいまちづくりの指針として、総合計画を策定

海田町や社会を取り巻く状況は、厳しい財政事情と地方分権、少子高齢化と人口の減少・停滞、地球環境問題など多岐にわたっています。こうしたことを踏まえながら、海田町として住民生活を支え、地域の活力を高める行政を展開していく必要があります。

そのため、海田町のまちづくりの方向性を明らかにする指針として、行政の継続性も保ちつつ、総合計画を策定しています。また、総合計画は、地域の人口推移等に関する長期計画である「地方版総合戦略」としての取組を内包したものであるとして、一体的に策定しています。

なお、平成23（2011）年の地方自治法の改正により、基本構想の法的な策定義務はなくなりましたが、海田町では海田町議会基本条例第12条の規定に基づき、議会の議決を経て総合計画を策定します。

計画の構成と期間（計画体系）

総合計画は、①基本構想、②基本計画、③実施計画によって構成されます。

① 基本構想

海田町が目指す都市像とその実現のための施策の基本方向などを明らかにするものです。

② 基本計画

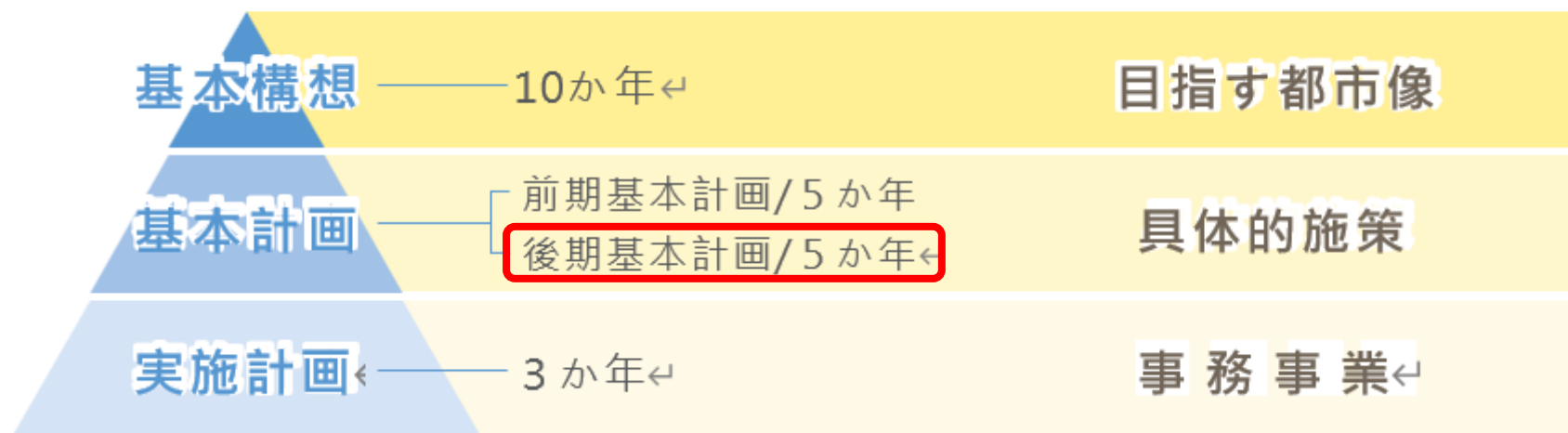
基本構想の達成に必要な施策の方針と具体的な施策を体系的に定めるものです。

社会状況の変化や計画の進捗状況に対応するため、5か年の計画（前期基本計画と後期基本計画）の策定を図ります。

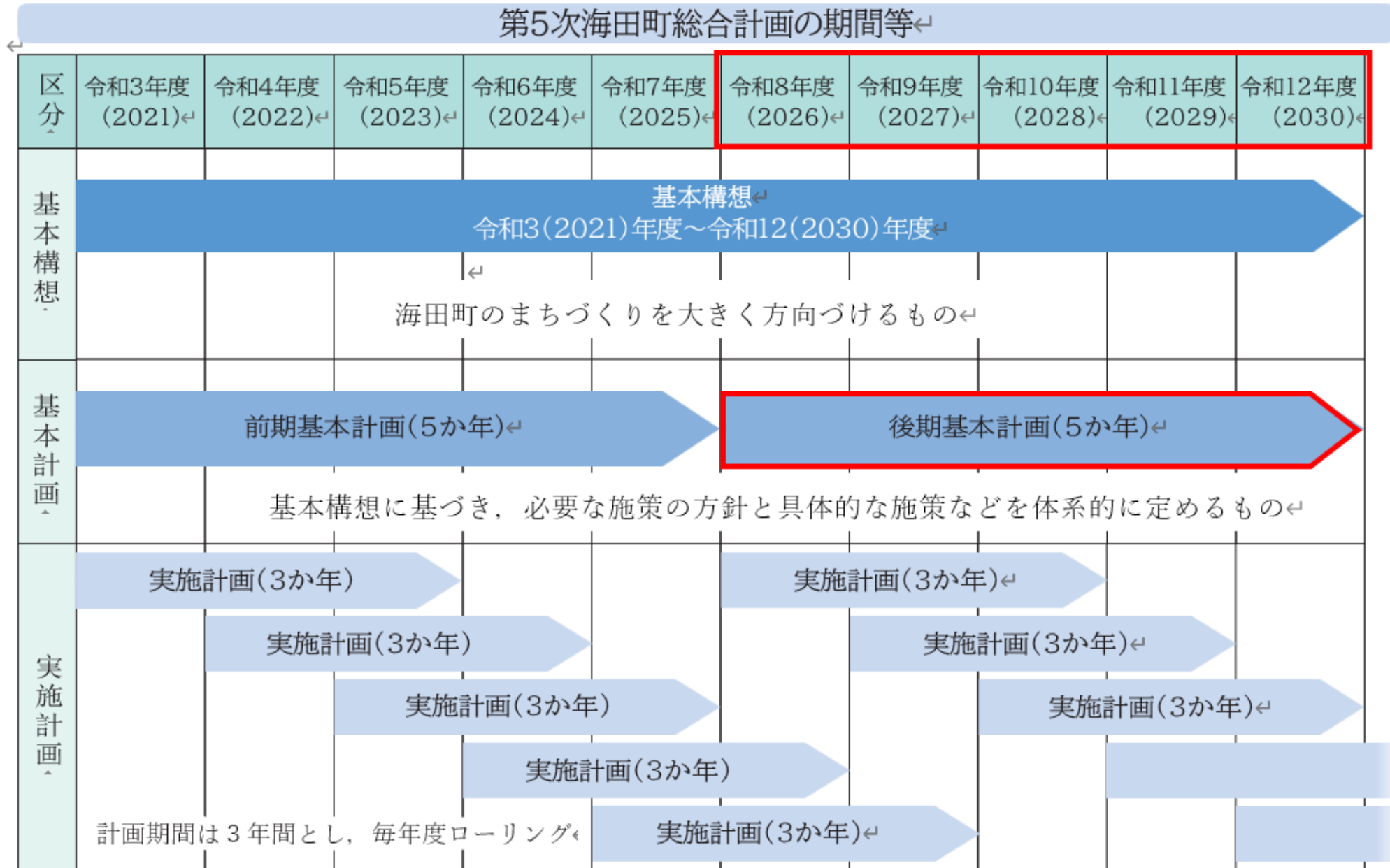
③ 実施計画

基本計画の実施のために必要な事務事業を明らかにする中期計画で、基本構想、基本計画をもとに、別途作成します。

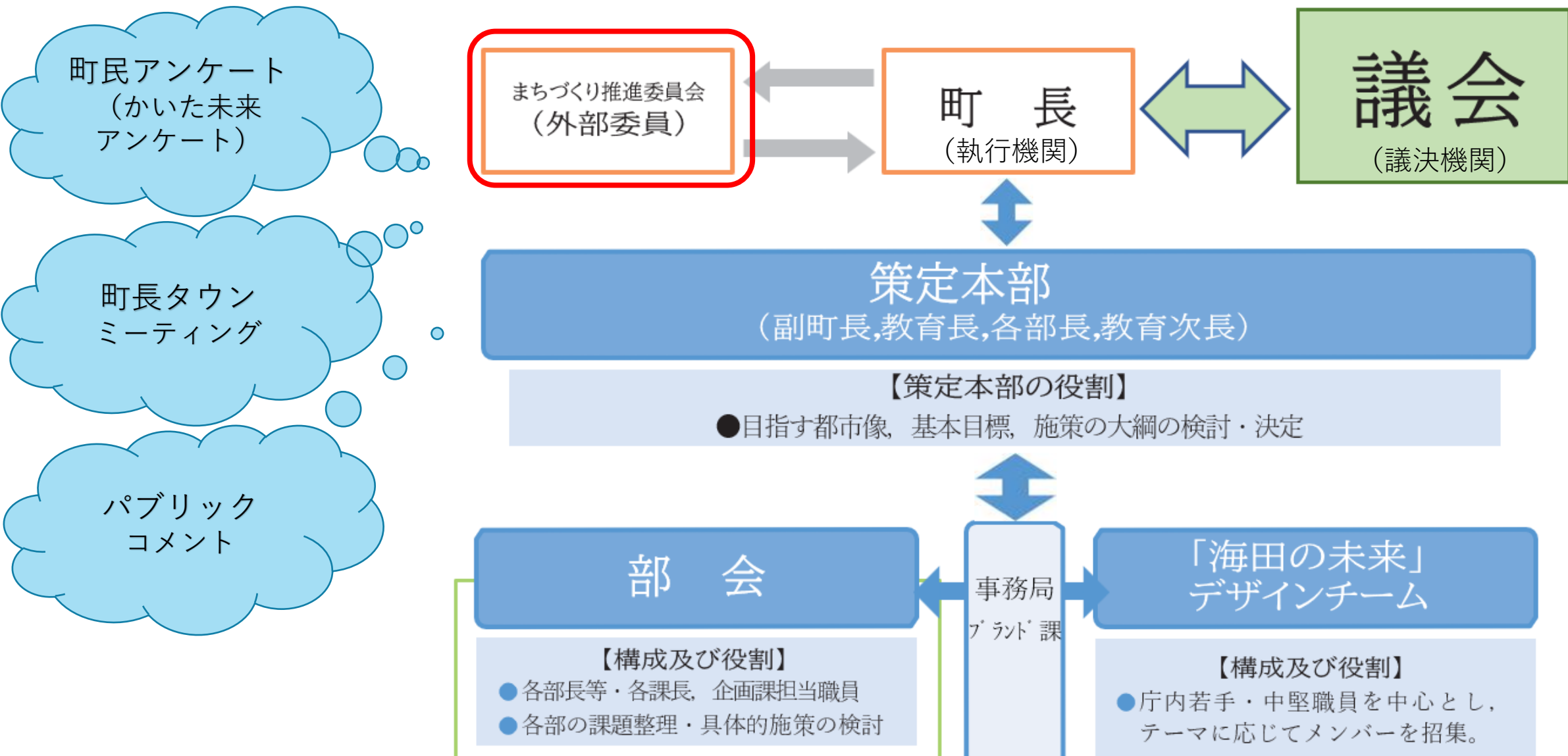
実施計画の計画期間は3年間とし、毎年度ローリングを行い、目指す都市像の達成に向けて、現実に即した弾力的な対応を図るものです。



計画の構成と期間（後期基本計画（令和8年度～令和12年度））



計画策定体制と住民意見交換等



計画策定スケジュール（令和6年度実績）

【令和6年度取組実績】

時期	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
住民				◆ <u>町民アンケート実施</u> ◆町長対話（魅力向上/活動団体） ◆町長対話（魅力向上/高校生） ◆町長対話（魅力向上/自治会）					◆ <u>町民アンケート結果公表</u>			
まちづくり 推進委員会												◆ アンケート結果 R7事業計画等
議会		◆事業執行状況		◆ <u>アンケート実施前説明</u>				◆ <u>アンケート結果説明</u>		◆事業執行状況		◆R7事業概要説明

後期計画策定スケジュール

【令和7年度取組予定】

時期	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
住民	◆町長対話（にぎわい）		◆町長対話（防災）	◆町長対話（福祉）			◆パブリックコメント			◆議決後に計画公表		
まちづくり 推進委員会					◆素案等説明			◆計画案等説明				◆ 実施計画等説明
議会		◆概要等説明			◆素案説明	◆ <u>（必要に応じ随時個別説明）</u>		◆計画案説明	◆12月議会で議案提案			◆ 実施計画説明

前期計画と後期計画の違い（後期計画策定にあたっての基本的考え方）

【基本構想】

- ・ 10年計画である基本構想部分は、後期計画においても継承する。

【情報の時点更新、前期計画の検証結果や社会情勢の変化などを踏まえた見直し】

- ・ 後期計画策定時点の各種情報の時点更新を図る。
- ・ 前期計画で掲げた目標の達成状況や町民アンケート調査結果、直近の人口推計、社会情勢の変化等を踏まえて、成果指標や行動指標の見直しを図る。

【新たな視点】

- ・ 令和6年度施政方針から新たな視点をベースに、説明項目を改めた。施政方針と後期計画の関連性を分かりやすくするために、後期計画においては、施政方針ベースでの新たな視点も取り入れたうえで、今後5年間での基本方針等を整理する。

【概要版（PRブック）の作成】

- ・ 町の魅力を内外に発信し、定住人口、関係人口の促進等に向けたプロモーション活動などに活用するため、後期計画の内容を概要版としてまとめる。

第5次総合計画（基本構想＋前期計画） 2021～2030

【序論】

- 第1章 計画策定の趣旨
- 第2章 計画の構成と期間
- 第3章 海田町の特性と主要課題

【基本構想】

- 第1章 まちづくりの基本理念
- 第2章 目標人口
- 第3章 施策の大綱及び基本施策
- 第4章 計画の推進

【前期基本計画】

- 第1章 分野別計画
- 第2章 地区別計画(地区別人口推計含む)
- 第3章 計画の推進力

【附属資料】

第5次総合計画（後期計画）案 2026～2030

【序論】

- 第1章 計画策定の趣旨、構成と期間
- 第2章 海田町の特性と主要課題
- 第3章 前期計画の検証
- 第4章 人口ビジョン (地区別人口推計含む)

(基本構想は後期計画においても継承する。)

【後期基本計画】

- 第1章 後期計画基本方針～新たな視点～
- 第2章 分野別計画
- 第3章 計画の推進力

【附属資料】

I 計画策定にあたって

II 計画策定に向けての諸分析

III 後期計画基本方針

IV 後期計画素案（別冊）

V 計画策定に係る取組と今後のプロモーション

【序論】第2章 海田町の特性と主要課題（アンケート分析）

●住民意向の推移

項目	平成21年度	前回比	令和元年度	前回比	令和6年度	前回比
愛着度	—	—	81.20%	—	85.10%	↗
住みよさ	83.30%	—	84.90%	↗	86.60%	↗
定住意向	85.60%	—	85.10%	↘	85.40%	↗

●住みよさ、転出理由の上位3回答

※赤文字は最高値

	住みやすい理由（その他を除く）	転出したい（転出する）理由
1	交通の結節点（利便性）	転出する予定がある （進学，就職，転勤，転職，結婚など）
2	山々や瀬野川などの自然環境	道路や交通の便が悪い
3	コンパクトなまちの構造	買い物や通勤・通学，通院などが不便

【序論】第2章 海田町の特性と主要課題（アンケート分析）

●年齢別住みよさの上位回答

年齢	住みやすい理由	住み続けたい理由
19歳以下	・交通の結節点(利便性)	・海田町に親や子がおり、気にかかる、 親しい人がいる ・買い物や通勤・通学、通院などが便利 ・道路や交通の便がよい(同率)
20歳代		
30歳代	・交通の結節点(利便性) ・子育てのしやすさ	・買い物や通勤・通学、通院などが便利
40歳代		
50歳代	・交通の結節点(利便性)	
60歳代		
70歳代	・山々や瀬野川などの自然環境	
80歳以上		

【序論】第2章 海田町の特性と主要課題（アンケート分析）

●まちの定住意向に関する全国調査

・定住意向とは海田町の住民のうち今後も海田町に住み続けたいと考える人の割合を示すもので、まちの将来を考えるうえで重要な指標のひとつです。

・定住意向は85%以上で全国の自治体の上位20%に位置しますが、本町の住民の定住意向は85.40%と、他の自治体と比較としても高くなっています。

令和6年度 定住意向
85.40%

階級	累積相対度数
50%未満	0.06
50%以上55%未満	0.09
55%以上60%未満	0.13
60%以上65%未満	0.19
65%以上70%未満	0.33
70%以上75%未満	0.45
75%以上80%未満	0.63
80%以上85%未満	0.82
85%以上90%未満	0.94
90%以上95%未満	1.00
95%以上	1.00

下位20%

上位20%

シティプロモーション自治体等連絡協議会
「令和5年度全国シティプロモーション実態調査」より抜粋・加工

【序論】第2章 海田町の特性と主要課題（アンケート分析）

【海田町の強み】

- ・町の愛着度は全国的に比較しても高い水準である
- ・鉄道、道路環境等の交通利便性の高さについて多くの年齢層から高い評価を得ている。
- ・下水道の整備、ごみ等の収集状況等の公衆衛生についても満足度が伸びている。
- ・これまで注力していた子育て環境については30～40代の評価が高い傾向にある。

【海田町の課題】

- ・定住意向について、交通利便性が高く評価されている一方で、転出理由の上位に交通の不便さが上がっているため、交通利便性の恩恵を享受できる地区が限られている可能性が高い。
- ・交通利便性や買い物環境など暮らしやすいまちとしての評価は高いが、子育て環境などの海田町の魅力が十分に伝わっていない。
- ・20代の転出入が多いことから、住民からの評価の高い子育て等の魅力発信によって海田町を選び続けてもらうことが重要になる。

【序論】第3章 前期基本計画の検証

施策の大綱	成果指標数							行動指標数						
	計	①達成	②順調	③概ね順調	④やや遅れ	⑤遅れ	⑥達成困難	計	①達成	②順調	③概ね順調	④やや遅れ	⑤遅れ	⑥達成困難
子どもの健やかな育ちを支えるまちづくり	8	0	4	3	1	0	0	29	3	11	9	3	2	1
災害に強く安全なまちづくり	10	3	5	0	0	2	0	19	8	3	1	4	3	0
地域特性を生かした基盤整備によるまちづくり	12	4	5	1	2	0	0	17	4	5	3	2	0	3
健康で安心して暮らせるまちづくり	11	0	0	2	5	2	2	28	12	10	1	2	2	1
誰もが輝くまちづくり	11	6	0	3	2	0	0	19	6	4	5	2	1	1
環境にやさしいまちづくり	7	1	1	2	0	1	2	11	3	2	2	3	1	0
にぎわいと交流のまちづくり	9	2	2	0	0	2	3	24	2	7	4	5	3	3
計画の推進力	13	1	1	8	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	81	17	18	19	13	7	7	147	38	42	25	21	12	9

【序論】第3章 前期基本計画の検証

※進捗度合いは取組の達成度別に点数化し、進捗を数値化しています。

①達成=1、②順調=0.8、③概ね順調=0.6、④やや遅れ=0.4、⑤遅れ=0.2、⑥達成が困難=0.1として算出

施策の大綱	進捗度合い※	実績・評価	後期総合計画に向けた方向性
子どもの健やかな育ちを支えるまちづくり	65.7%	<ul style="list-style-type: none"> かいたネウボラを中心とした子育て環境の充実は推進されている 学校整備は大規模な改善はできなかった 子育て家庭の経済的なゆとりの確保や子育て情報の発信には注力する必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> 子育て環境の充実に向けた取組は継続的に実施 2つの小学校建て替えを進め、学校整備を推進する 3つの無償化などを進め、経済的なゆとりの確保を実施する
災害に強く安全なまちづくり	71.0%	<ul style="list-style-type: none"> 国土強靱化地域計画の策定や豪雨災害の復興復旧が完了し、ハード面の整備が進んでいる 防災フェアの開催など、子育て世代の参加が進み、自助の意識醸成ができつつある 	<ul style="list-style-type: none"> 消防団員数の確保など災害に向けた人員確保が難しくなっている まちづくり出前講座などにより防災意識の醸成をより進める必要がある
地域特性を生かした基盤整備によるまちづくり	70.0%	<ul style="list-style-type: none"> 立地適正化計画等の策定が完了し、居住環境の方向性が定まっている 都市計画道路の整備率も徐々に向上しており、また幹線・生活道路の満足度も同時に向上し、住みよいまちへの評価が高まっている 	<ul style="list-style-type: none"> コミュニティバスの満足度等は目標値からは遅れているため利用促進が必要である 道路環境は良くなったものの、交通網の整備は今後も注力する必要がある
健康で安心して暮らせるまちづくり	65.9%	<ul style="list-style-type: none"> 基幹相談支援センターや児童発達支援事業所は計画通りに設置が完了している 高齢者福祉や障がい者福祉はサポートできる場所や体制整備が進んでいる 	<ul style="list-style-type: none"> 健康寿命の延伸など達成にはある程度時間が必要な取組には今後も一定した行政サービスの提供が重要になる 健康、福祉分野では今後もサポート体制の整備や相談できる場所の確保等に努める

【序論】第3章 前期基本計画の検証

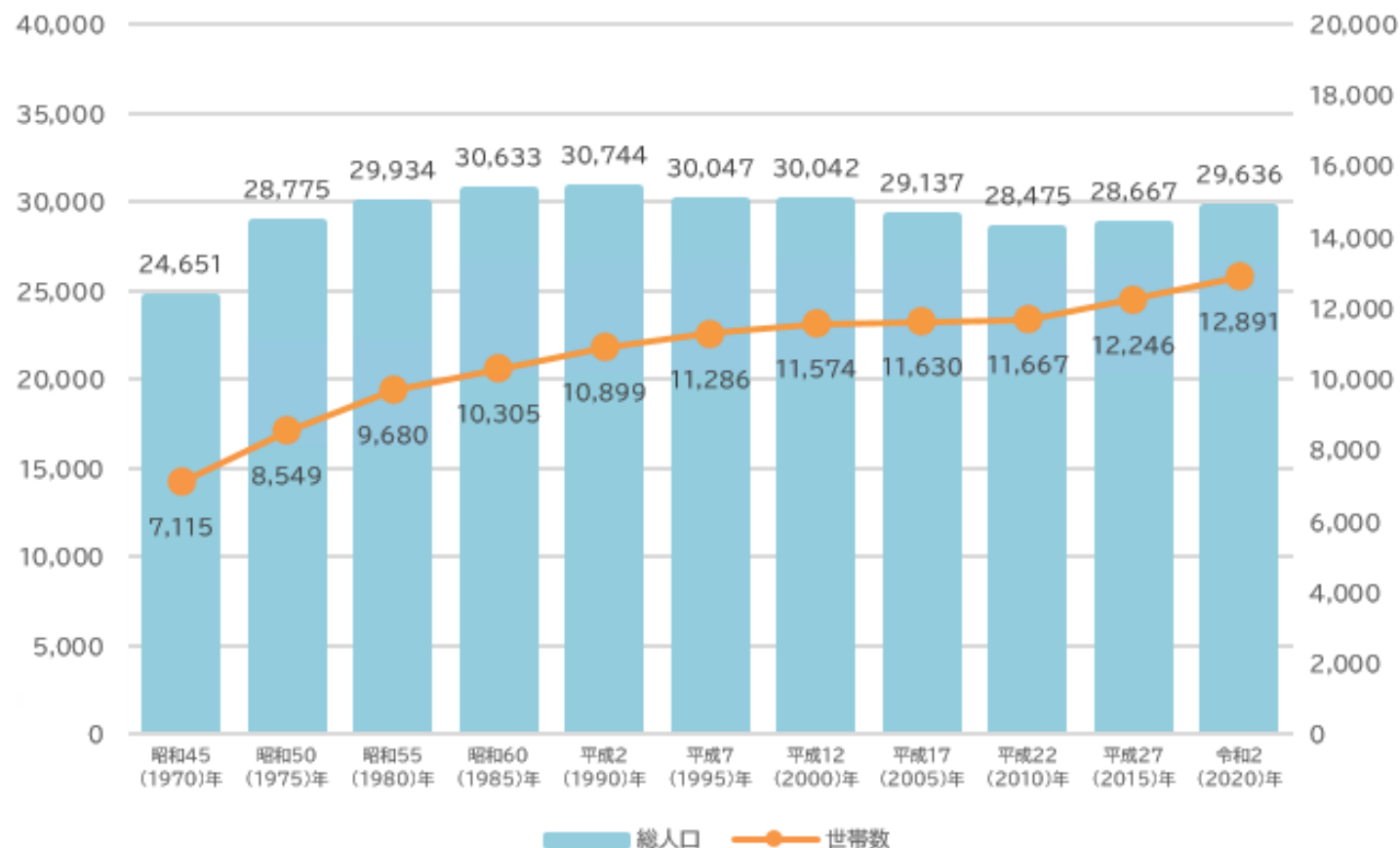
施策の大綱	進捗度合い※	実績・評価	後期総合計画に向けた方向性
誰もが輝くまちづくり	73.0%	<ul style="list-style-type: none"> まちづくり出前講座や公民館主催の講座など生涯学習の環境整備と取組推進が進んでいる 歴史文化の振興では情報発信などが徐々に進んでおり、町の認知度などは向上している 	<ul style="list-style-type: none"> スポーツ振興では大規模大会の開催が目標であったが、スポーツ人口を増やすためイベント開催数を増加するなど現状に見合った取組を目指す 生涯学習等の分野では、歴史文化をはじめ今後も情報発信を強化しながらも、利用者の増加等につながる取組の強化が重要である
環境にやさしいまちづくり	58.9%	<ul style="list-style-type: none"> ごみの不法投棄件数など遅れているものもあるが、3Rの取組は目標値を完了し、環境保全の取組が進んでいる 公園、広場、緑地整備の満足度も順調に推移しており、自然環境の保全と利用も進んでいる 	<ul style="list-style-type: none"> 住民一人当たりのごみ排出量などの成果指標の達成には今後も環境保全の取組に注力する必要がある 環境整備分野では、福祉分野と同様に一定の行政サービスの提供が求められる
にぎわいと交流のまちづくり	52.1%	<ul style="list-style-type: none"> 町内総生産額や町内就業者数は目標値を達成しており、商工業や就業の整備は進んでいる 就労支援については各種支援制度の周知など情報発信も達成できている 	<ul style="list-style-type: none"> 自治会の加入率などこれまでの地域のコミュニティ基盤が衰退傾向にあるため、取組が必要になっている 就労分野では支援制度の周知を進め、今後は実際に利用していただくための取組に注力することが重要である
計画の推進力	60.0%	<ul style="list-style-type: none"> 町役場の移転新築もあり、窓口対応や諸証明取得の満足度が向上している 行政運営の満足度や住民意見の反映などの指標はやや遅れており、町の取組をしっかりと伝えていく必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> 情報発信に関する満足度は順調に推移しているが、住民の情報取得手段を把握し、より情報を取得しやすい手法を検討する必要がある 計画の推進力では取組進捗を図れるような指標へ変更し、進捗が芳しくない場合には原因を分析できるようにする

（1）人口・世帯数の推移

海田町における総人口は平成2年以降、減少傾向にありましたが、平成22年から増加傾向に転じており、令和2年は29,636人となっています。

世帯数は昭和45年から増加傾向にあり、令和2年時点で12,891世帯が海田町に居住しています。

総人口および世帯数の推移

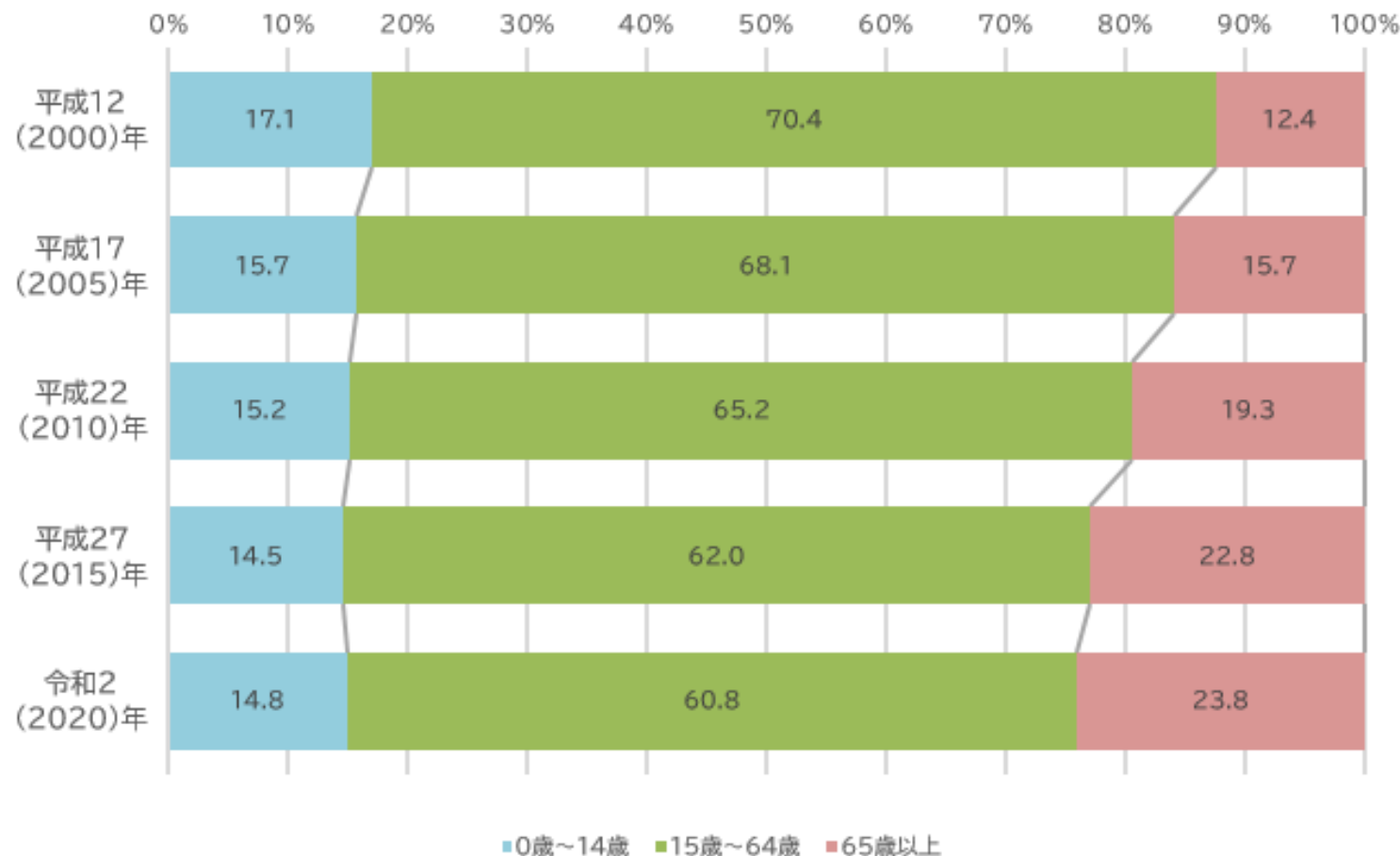


出典：総務省「国勢調査」

（2）年齢別人口構成の推移

海田町における年齢別人口構成の推移では、年少人口の割合が減少傾向にありましたが、令和2年にはやや増加しています。生産年齢人口（15歳～64歳）の割合は、平成12年から令和2年度にかけて継続して減少傾向にあります。また老年人口（65歳以上人口）の割合は、平成12年から令和2年にかけて継続して増加傾向にあります。

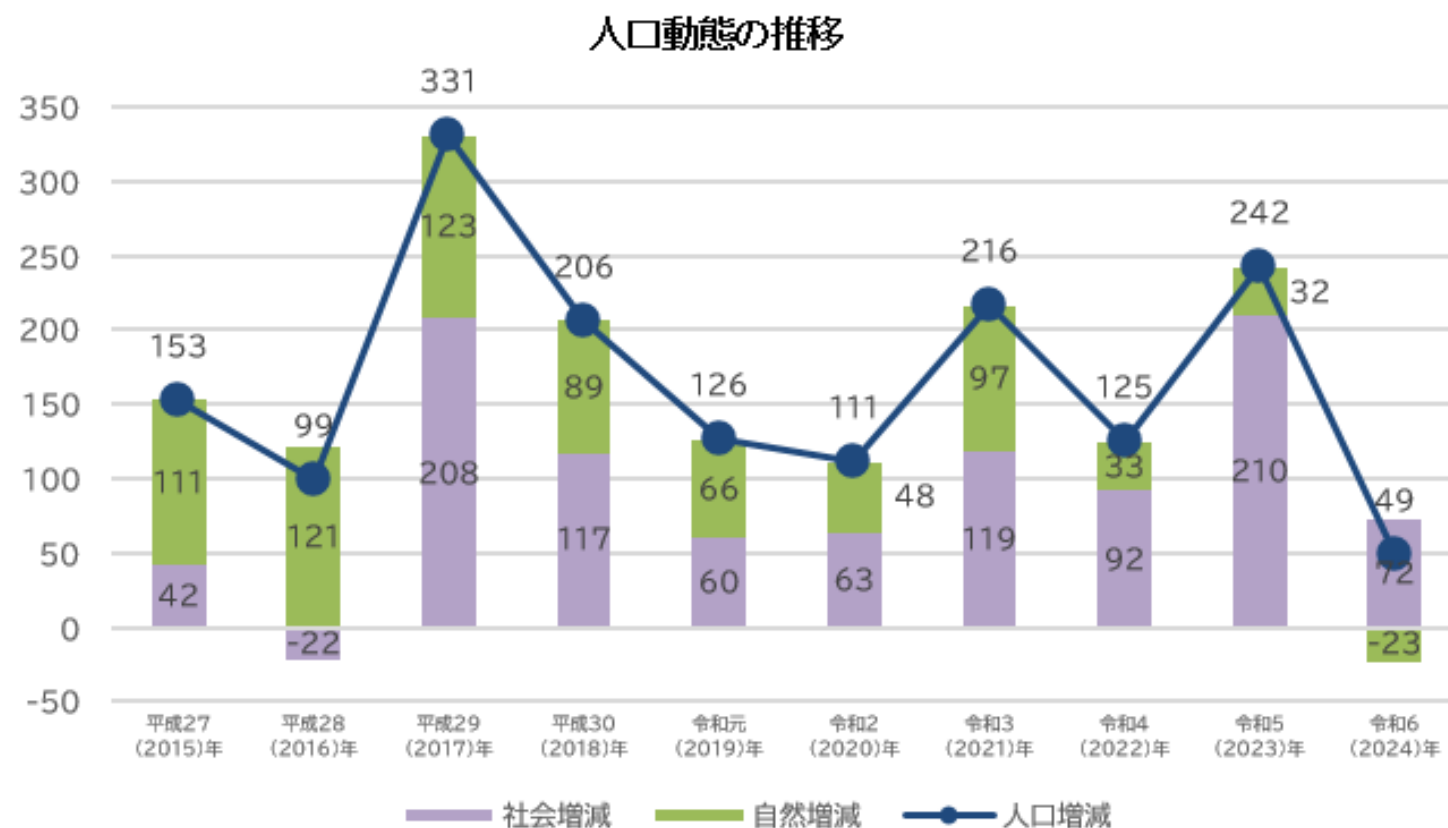
年齢階級別人口比率の推移



出典：総務省「国勢調査」

（3）人口動態

海田町における人口動態の推移をみると、令和5年までプラスの値となっていた自然増減数が、令和6年においてマイナスの値に転じています。また、社会増減数は平成29年以降プラスの値となっています。自然増減数と社会増減数を合わせた全体の人口増減数は、過去10年間ですべてプラスの値となっています。



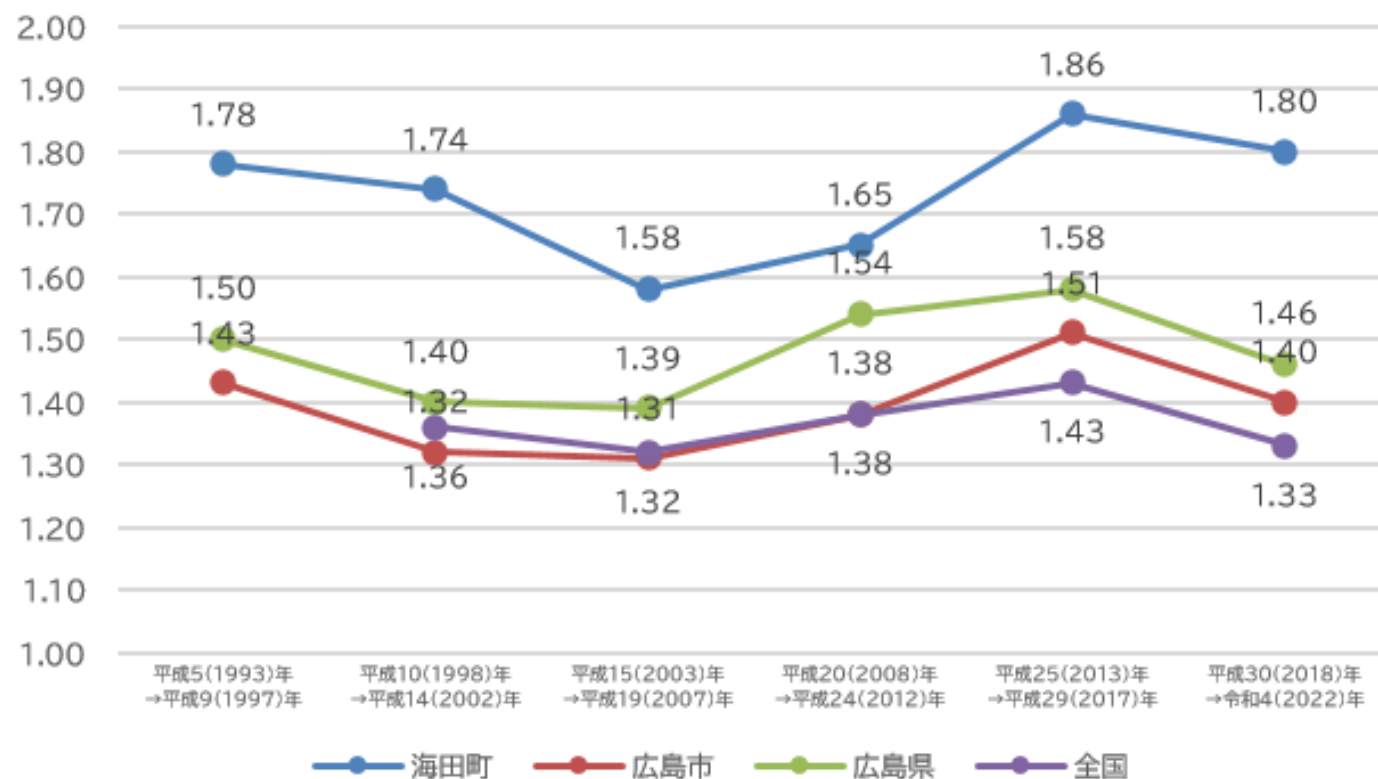
出典：広島県「広島県人口移動統計調査」

（5）合計特殊出生率の推移

海田町の合計特殊出生率は平成30年～令和4年において1.80となっており、広島県平均や全国平均と比較して高い値となっています。

合計特殊出生率の推移をみると、平成15年～平成19年の1.58を境に増加傾向にありましたが、平成25年～平成29年の1.86をピークとしてやや減少傾向にあります。

合計特殊出生率の推移



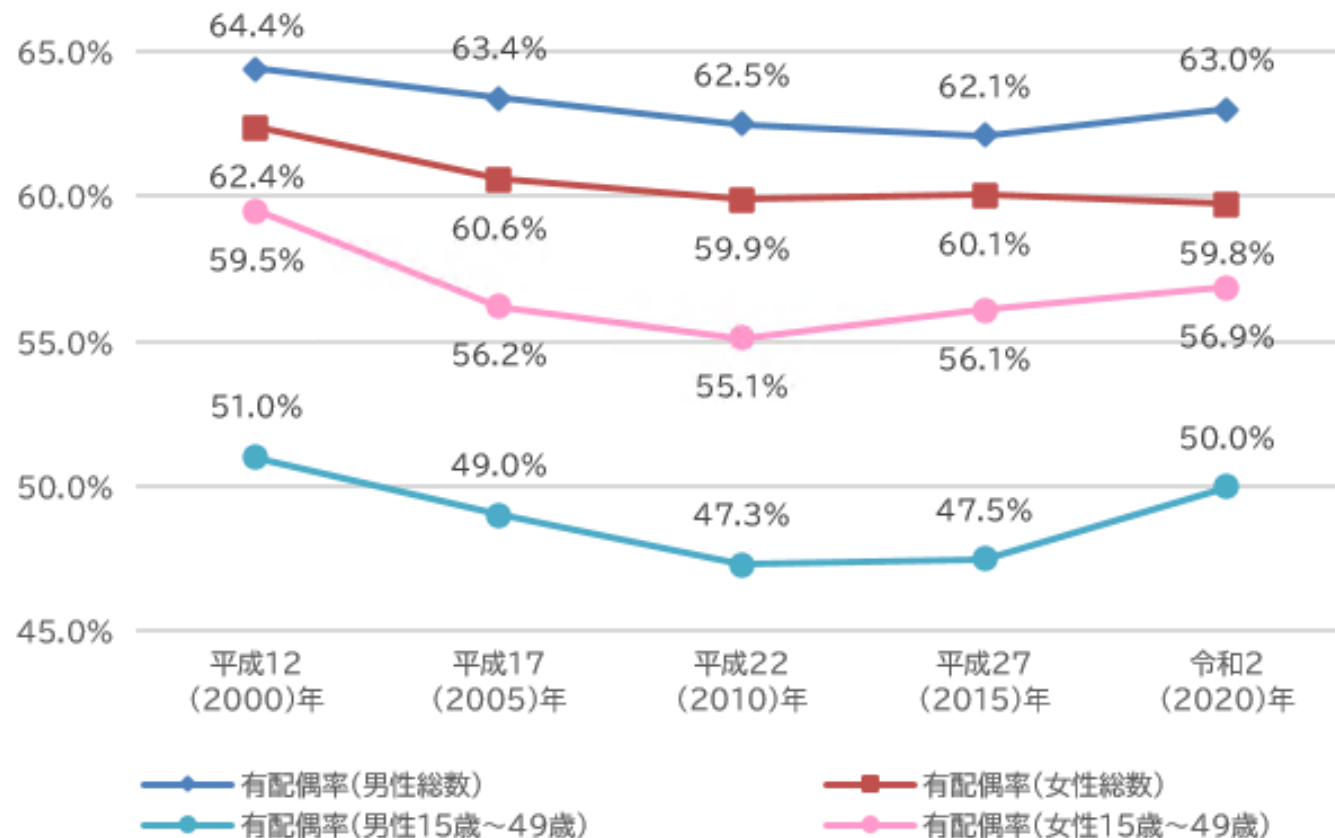
出典：厚生労働省「人口動態保健所・市区町村別統計」

（6）有配偶率の状況

海田町における有配偶率の推移を見ると、全体では女性と比較して男性の有配偶率が高い傾向にあります。

一方で、人口再生産年齢（15歳～49歳）の有配偶率は令和2年で男性が50.0%、女性が56.9%となっており、平成22年を境に増加傾向にあります。

有配偶率の推移



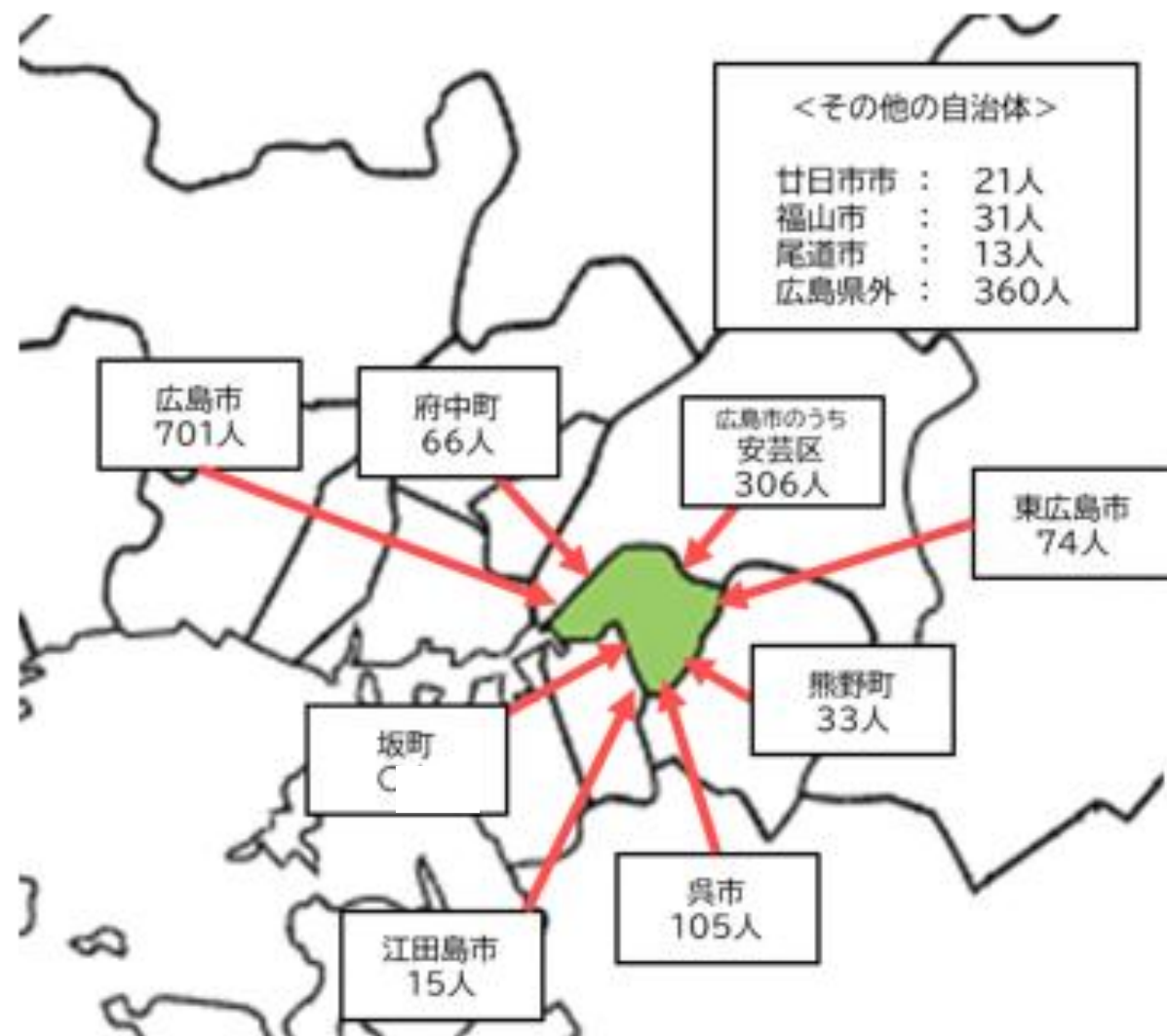
出典：総務省「国勢調査」

（7）転入の状況

海田町の令和6年の人口移動のうち転入の状況を見ると、近隣市町では広島市からが701人で最も多く、次いで呉市が105人、東広島市が74人などとなっています。

また、近隣自治体では熊野町から33人、府中町から66人が転入しています。また、広島県外からは360人の転入があります。

周辺自治体からの転入数



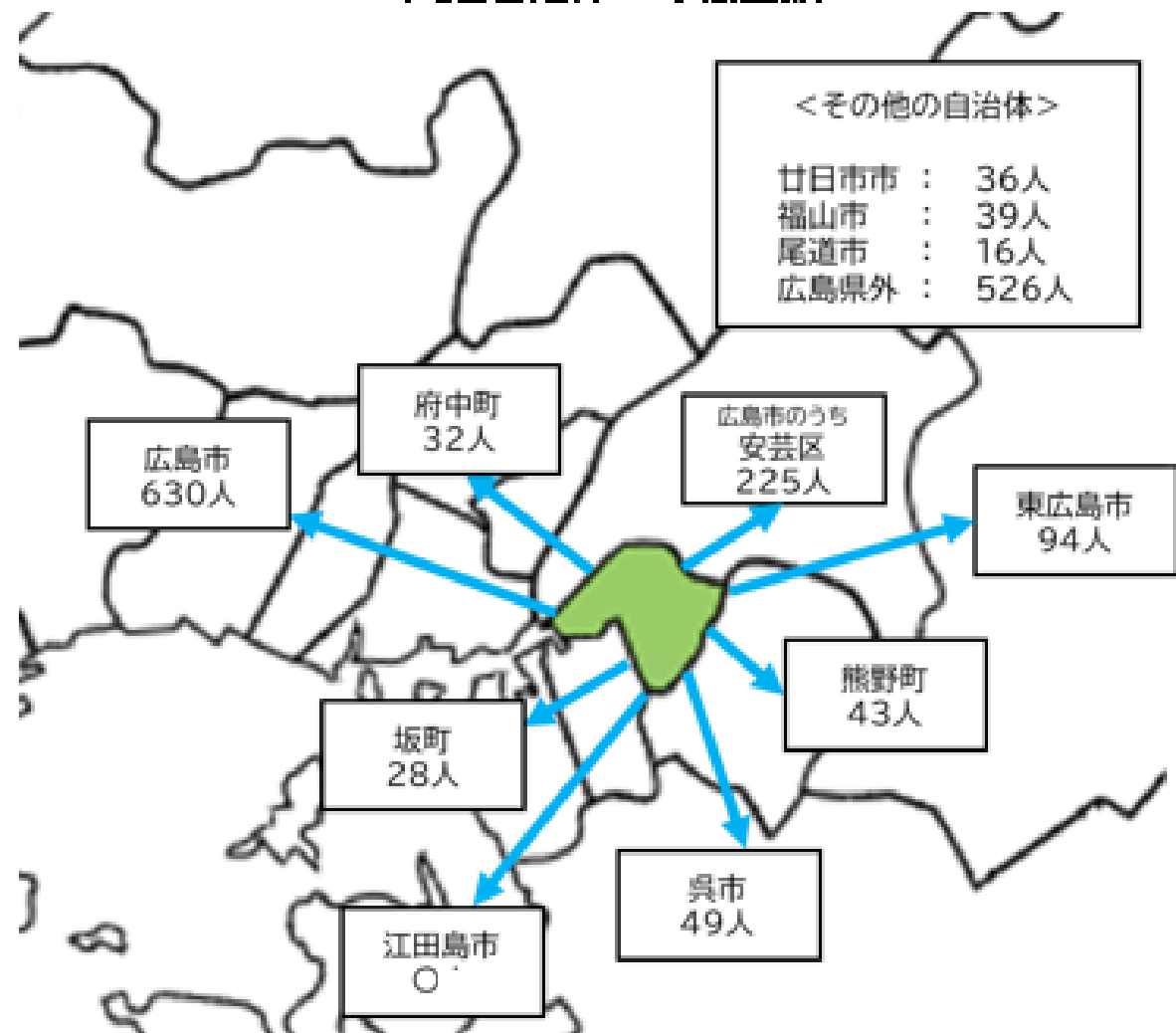
出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告2024年（令和6年）」

（8）転出の状況

転出の状況を見ると、近隣市町では広島市への転出が630人で最も多く、次いで東広島市が94人、呉市が49人となっています。

また、近隣自治体では熊野町に43人、府中町に32人、坂町に28人が転出しています。広島県外への転出は526人となっており、転入数よりも多い値となっています。

周辺自治体への転出数



出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告2024年(令和6年)」

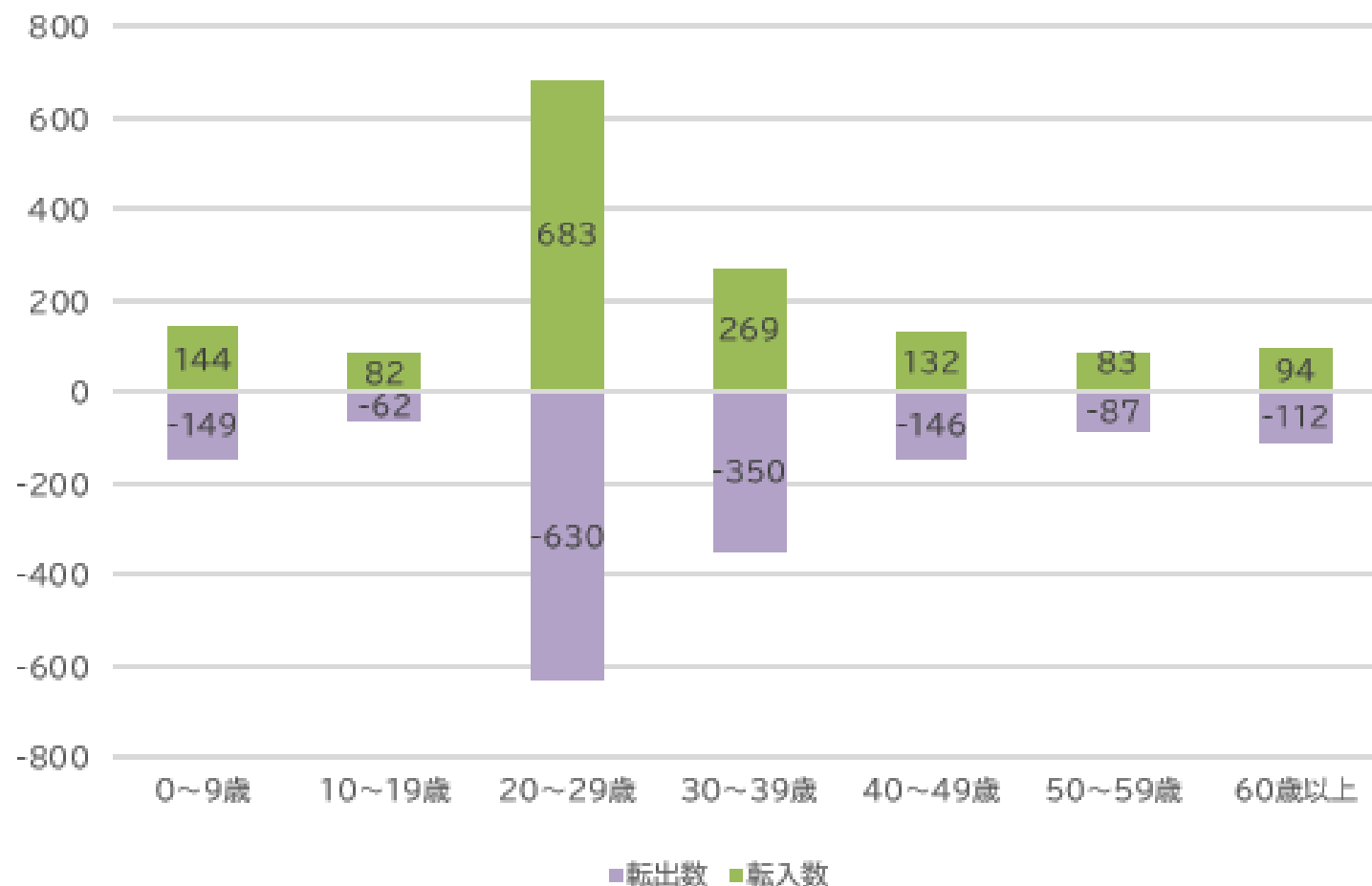
（9）年代別転出・転入の状況

海田町における年代別の転出・転入数を見ると、最も転出数が多いのは20代となっており、次いで30代が多くなっています。

転入数についても同様の傾向にあり20代が最も多く次いで30代が多い傾向にあります。

また0歳～9歳が転出数・転入数ともに多くなっています。

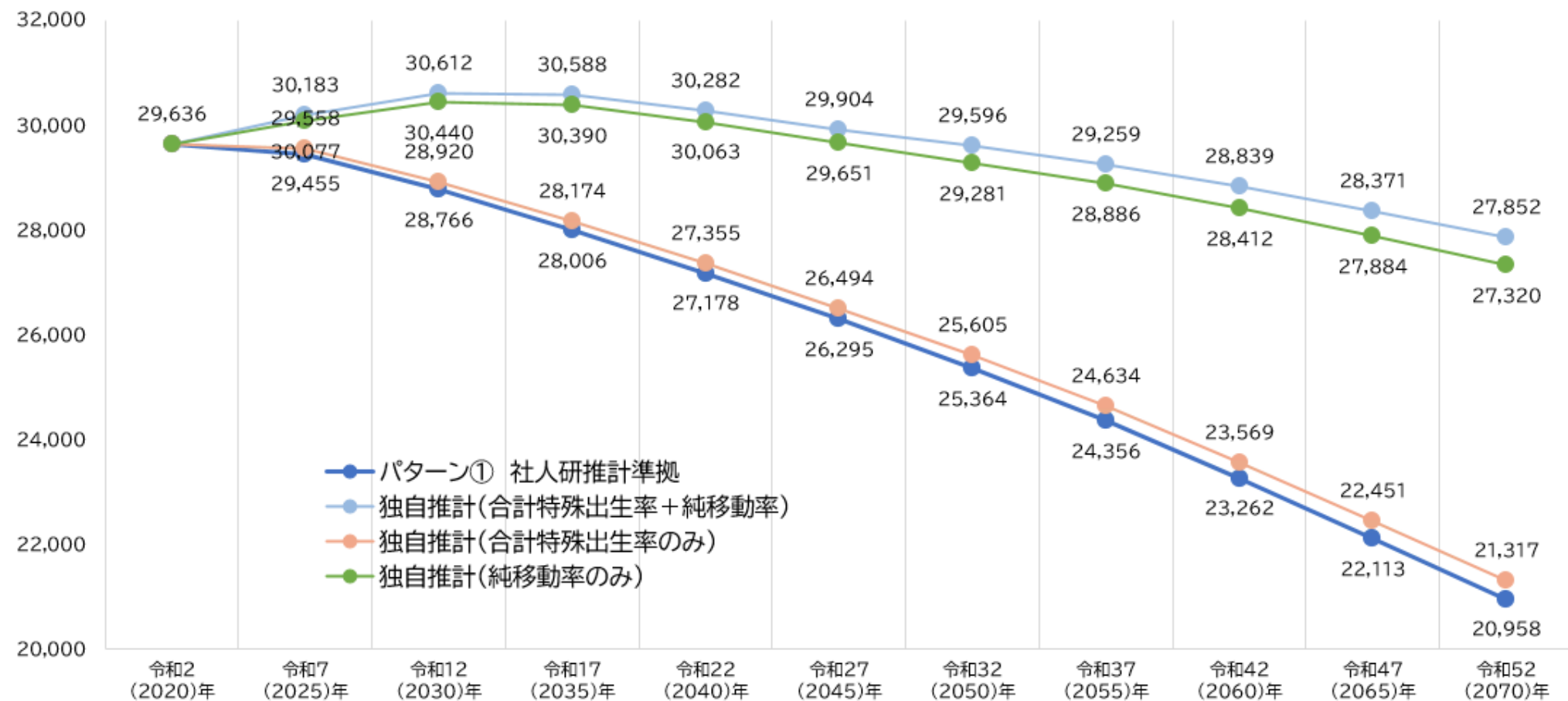
年代別転出・転入数



出典:総務省「住民基本台帳人口移動報告2024年(令和6年)」

【序論】第4章 人口ビジョン（将来人口推計）

(人)



	出生	純移動率
独自推計方法	合計特殊出生率が1.80を維持すると仮定し仮定値を設定	2020年～2025年における純移動率の実績値を基準に、2040年に0歳～40歳が移動均衡(純移動数が0)になると仮定し、2025年～2040年の間で段階的に移動均衡を達成するよう按分した仮定値を設定(純移動率0以上および41歳以上は社人研推計値を採用)

①海田町の現状

海田町の人口推計を検討するにあたり、町の現状について様々な視点からデータを抽出し考察しました。総人口は増加傾向となっている一方で、自然増減数の減少や20代～30代における転出数の多さなどの課題も見られています。

総人口

- 海田町における総人口は平成22年度から増加傾向に転じており、令和6年度は30,268人となっています。
- 若年人口・生産年齢人口の割合は減少傾向にありましたが、令和6年度はやや増加傾向にあります。
- 老年人口の割合は増加傾向にありましたが、令和6年度はやや減少しています。

社会増減

- 社会増減は平成29年以降プラスの値となっています。
- 転出数・転入数ともに、広島市が最も多くなっています。
- 転出数・転入数ともに、最も多い年代は20代であり、次いで30代が多くなっています。

自然増減

- 令和6年度の自然増減数はマイナスの値となっています。
- 合計特殊出生率は全国・広島県と比較すると高く、1.80となっています。
- 人口再生産年齢（15歳～49歳）の有配偶率は平成22年度を境に増加傾向にあります。

②将来人口の推計

人口ビジョンの推計は、国立社会保障・人口問題研究所（以下：社人研）の算出した仮定値と、海田町独自に設定した仮定値（独自推計）の2つの方法で算出しました。

独自推計では、人口増加に向けて改善の取組を行うと仮定した場合のシミュレーション値を、出生および純移動率のそれぞれで設定し、推計値を算出しています。

社人研推計値では将来的な令和52（2070年）の人口は約21,000人と推計されていますが、独自推計においては約28,000人まで減少を抑制することが推計されています。

特に、出生の仮定値と比較すると純移動率の仮定値が独自推計に対して大きく影響しています。

このことから、海田町における人口に対する施策としては特に「社会増」を目指した取組を積極的に行うことが有効であると考えられます。

推計方法	令和52(2070)年の 総人口推計
社人研推計	20,958
独自推計 (合計特殊出生率のみ)	21,317
独自推計 (純移動率のみ)	27,320
独自推計 (合計特殊出生率および純移動率)	27,852

③人口の変化による地域への影響

海田町の人口推計において算出された将来的な人口の変化を想定し、地域に対する影響について検討すると、買い物など日常生活や、雇用、地域経済面、コミュニティなどにおいて様々な影響を及ぼす可能性があることがわかります。また、人口減少により税収をはじめとする財政状況が厳しくなる他、高齢化による社会保障の負担が増加するなど地域運営の維持に関して多くの事項が懸念されます。第5次海田町総合計画後期基本計画では、持続可能な地域社会を目指し、将来的な展望を見据えた目標や施策を設定することが重要です。

人口の変化に伴う影響が考えられる要素（一部）

買い物等日常生活
地域交通

コミュニティ
地域の防災

公共施設
インフラ

雇用
地域経済

社会保障

財政

I 計画策定にあたって

II 計画策定に向けての諸分析

III 後期計画基本方針

IV 後期計画素案（別冊）

V 計画策定に係る取組と今後のプロモーション

後期計画基本方針（現状と課題と対策）

現状

住民からは交通利便性や買い物環境など暮らしやすいまちとしては多くの世代から高い評価を得ており、まちへの愛着度や定住意向は高い。
子育て環境については30～40代の子育て世代から比較的高い評価である。

課題

これまで交通利便性や広島市・呉市のベッドタウンとしての差別化により、自然と転入人口が一定数あった。
今後人口減少が進む中では、自然と転入超過になることは難しい。
町内で、交通利便性や買い物環境など暮らしやすいまちとしての評価は高いが、町外者に対して子育て環境なども含めて海田町の魅力がまだ十分に伝わっていない。

対策

町への誇り・愛着をさらに高めながら町外への人口流出を防ぎつつ町の魅力や暮らしやすさを町内外に伝え、新たな人々を迎え入れる

第5次海田町総合計画後期計画策定に向けた町長インタビュー概要①

■ 町長が描く海田町の目指す姿

- ⇒ センスのよいまち（緑豊かな住環境、景観がよい、活気があって楽しいなど）
- ⇒ 都心から一番近い「良質な住環境」と「快適な都市環境」が同居するまち
（住環境が整っていて住みやすい町、その結果、若い子育て世代の流入がしっかりとある町）
- ⇒ 「海田に来れば心豊かな暮らしができる」というポジティブなイメージ
- ⇒ 「住み続ける価値の高いまち」というブランディングの確立
- ⇒ 広島の究極のベッドタウンというポジション＝まちの価値を上げる開発誘導
＝まちの景観価値と環境価値を高めれば資産価値も高まる
＝便利でも環境の悪い地域より、多少不便でも環境の良い地域が選ばれる

■ 町長が思う海田町の課題

- ⇒ 町の認知度の低さ、目的地やブランドの不足
- ⇒ サードプレイスの不足
- ⇒ 沿道開発（ロードサイド店舗）の低調
- ⇒ 官民連携（活動人口（プレイヤー）、関係人口、地域貢献企業）の弱さ
- ⇒ 新旧住民の融合（シビックプライドの醸成）
- ⇒ 町のポテンシャルを高めるための具体的な指針
（デザインガイドライン（紫波町オガール）、ブランディングプラン（流山市））の不足

第5次海田町総合計画後期計画策定に向けた町長インタビュー概要②

■ 後期基本計画に反映したいポイント

- ⇒ 海田を進化させる生存戦略（町民も役場も課題を直視し、挑戦を続け、失敗から学び進化・適応するまちへ）
- ⇒ 「10年後、誰もが憧れるまち」スローガンの下、
 - ①たまっていた「宿題」を片付ける②これからの未来に「投資」する③「変わり続ける力」を身に着ける という3つの視点
- ⇒ 公約の具体化（短期、中期、長期の区分、ロードマップ）
- ⇒ 定住人口（現在の町民and未来の町民）獲得のエビデンスとしての政策・施策

■ かいた未来アンケートから見る町民ニーズに関する考え

- ⇒ 日々の暮らしに困るレベルの不満はないがこの町でなければならない決め手（付加価値）に欠けている印象

■ 海田町の広島県における位置づけ、役割に関する考え

- ⇒ 広島都市圏東部の玄関口
- ⇒ 広島都心、呉、東広島のトライアングルの重心にあるハブ都市

■ 総合計画の構成、デザインについて

- ⇒ 渋谷区のようなスタイル（施策の柱に、現状と課題（課題背景）
 - 基本目標→施策の方向性（施策内容）→成果指標）が分かりよい。
- ⇒ 概要版は本町のPR資料やコンセプトブックとしても活用したい。
 - （素材は（企業版）ふるさと納税パンフなどにも）
- ⇒ HPのデザイン改修や広報の見直しともリンクさせる。
- ⇒ 町民の声を施策の推進力に使う

目指すは「住みたい・住み続けたい・帰ってきたい」まちへ。

「自分らしく暮らせる ヒューマンスケールのまち」

海田町が大事にしたいのは、この町で暮らす人々中心のヒューマンスケールの視点。

自分らしい暮らしを日々送りながら、山川海に囲まれた海田の自然に癒され、お店やそこで集う人々との出会いを楽しみ、お気に入りの居場所にくつろぐ——。

そんな暮らしに根差したまちを目指します。

※ヒューマンスケールとは、人間の行動や感覚を尺度にデザインしたまちづくり。ここでは、人が交流し、人で賑わい、人の温もりを感じられる、人を中心に据えたまちづくりをしようという考え方。

「自分らしく暮らせる ヒューマンスケールのまち」

【誇りと愛着】
懐かしい風景と愛しい
思い出が残るまち



- ◆地域のレガシーとなるインフラ整備
- ◆コミュニティが育つまちづくりの推進
- ◆歴史の継承と文化が息づく環境の整備

【賑わいと活力】
未来につながる、
あらたなチャレンジが
生まれるまち



- ◆ポテンシャルを引き出すまちづくりの推進
- ◆新たなビジネス展開のための環境の整備

【子育て教育】
切れ目なく成長し、
学習しつづけるまち



- ◆あらゆる家庭が安心して子育てできる環境の整備
- ◆海田っ子の可能性を育む質の高い教育の充実
- ◆あらゆる世代が学び続けられる学習の推進

【健康と生きがい】
一生、
自分らしく
生きられるまち



- ◆高齢者、障がい者などが安心して暮らせる環境の整備
- ◆生涯を通じた健康づくりの推進

【安全安心】
人の意識と
自然の恵みで、
未来を守るまち



- ◆自助・共助・公助の連携による防災対策の推進
- ◆住民の暮らしの安全の確保
- ◆自然と共生するエコなまちづくりの推進

後期計画基本方針（新たな視点に係る重点事業）

新たな視点	後期計画重点事業	総合計画（施策大綱）－基本施策
【誇りと愛着】 懐かしい風景と愛しい思い出が残るまち	街のランドマーク「新駅」の誘致に向けた検討の推進	③－計画的な土地利用の促進
	人と地域を育む「小学校」建替計画の推進	①－学校教育の充実
	四季を感じる「お祭り・イベント」の通年開催	⑦－まちの魅力を活用した関係人口増加
	「西国街道」再生プロジェクトの推進	⑦－まちの魅力を活用した関係人口増加
【賑わいと活力】 未来につながる、あらたなチャレンジが生まれるまち	公共施設のファシリティマネジメントの推進	⑤－生涯学習の推進、計画の推進力
	共感と参加をテーマとした広報広聴の推進	⑦－地域活動と多様な担い手によるまちづくり
	地域で頑張る「中小企業」の支援強化	⑦－商工業の振興
	魅力的な店舗の誘致	⑦－商工業の振興
【子育てと教育】 切れ目なく成長し、学習しつづけるまち	子育て家庭支援サービスの向上（3つの無償化）	①－子育て支援の充実
	「海田っ子応援基金」等を活用した学びの環境改善	①－学校教育の充実
	海田版「小中一貫教育」の推進	①－学校教育の充実
【健康と生きがい】 一生、自分らしく生きられるまち	高齢者、障がい者等への相談支援体制の充実	④－高齢者、障がい者福祉の推進
	高齢者の活躍機会の創出	④－高齢者福祉の推進
	健康寿命の延伸	④－健康づくりの推進
【安全と安心】 人の意識と自然の恵みで、未来を守るまち	地域における防災力の一層の強化	②－防災・減災体制の強化
	町民の生命と財産を守る防災インフラの整備	②－災害復旧復興・インフラ強靱化
	3Rによるごみ減量化の推進	⑥－環境保全と循環型社会の形成

新たな視点（ヒューマンスケールのまち）

「ヒューマンスケールのまち」とは、住民の視点や人間の活動を起点に設計され、都市や公共空間が人間にとって快適で利用しやすいスケールで整備されたまちのことを指します。この考え方は、歩行者や地域住民の生活を中心に据え、車や巨大なインフラよりも「人」の存在を重視する都市デザインに基づくものです。

歩行者優先のデザイン

歩道や自転車道が充実しており、人が安全で快適に移動できる空間が整備されている。例えば、車の交通量を減らしたり、広い歩道を設けたりします。

公共空間の充実

公園や広場、街角カフェ、オープンマーケットなど、住民が集まりやすい場所が多い。これによりコミュニティの交流が促進されます。

地域の特性を活かした設計

人が心地よく感じるような高さの建物やデザインを採用し、地域の文化や歴史を感じられる街並みを形成します。

多様な移動手段の提供

徒歩や自転車以外にも、公共交通機関が充実しており、誰でも簡単にアクセスできる。これにより車に頼らず生活できる。

環境配慮

緑地や植栽が豊富で、生態系に配慮。排出ガスを減らす設計やエネルギー効率の高い施設が特徴。

住環境の近接性

住む・働く・買い物をするなど、日常生活に必要な場所が徒歩圏内に集まっている。これにより、移動にかかるストレスが減少。

典型的な例

ヨーロッパの古い街並み（例：コペンハーゲン、アムステルダム）：歩行者や自転車が中心にデザインされている地域が多い。
日本の一部の小規模な地方都市・地域（例：京都の一部地区、祝島など）：自然や文化を活かした人に優しい設計が見られる。
「ヒューマンスケールのまち」は、数値ではなく、人々が街の中でどれだけ快適に活動・交流できるかを基準とした都市設計の考え方とも言える。

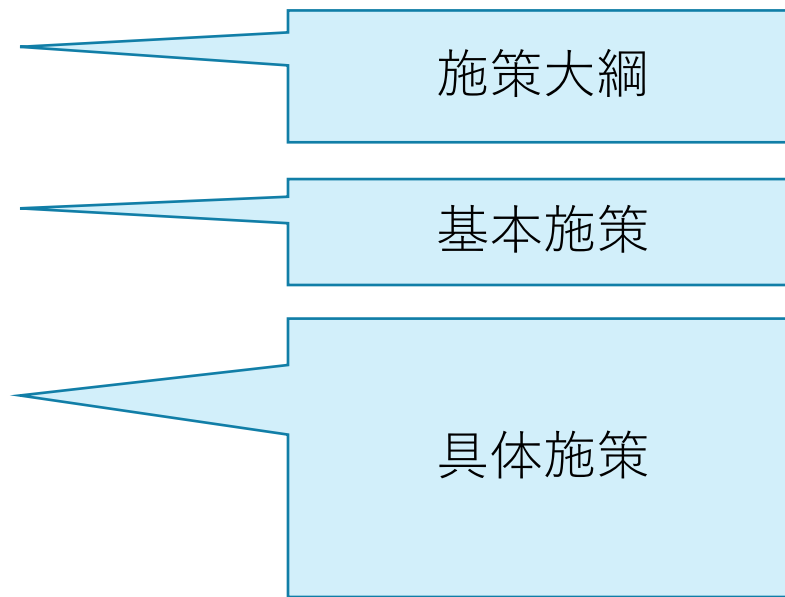


後期計画分野別計画（記載例）

1 こどもの健やかな育ちを支えるまづくり

1. 子育て支援の充実

- ① 多様化する保育ニーズへの対応「豊かな心」の育成
- ② 子育てに関する支援の充実
- ③ 子育て家庭の暮らしを支える支援の充実



Ⅰ 現状と課題

- 核家族化の進展や地域のつながりの希薄化により、子育て家庭では、日々の子育てに対する助言、支援や協力を身近な人から得る事が困難な状況にあり、悩みや不安を抱えながら子育てを行っている保護者が少なくありません。
- 住民アンケート結果によれば、本町では子育て家庭で経済的にゆとりがないと感じている人が3割程度みられます。
- 住民アンケート結果によれば、本町では3～4人に1人の割合で子育て支援に関する情報が入手できていないと感じています。
- こどもの成長に伴い、就労する母親が増えていく傾向を見据え、保育ニーズに応じた受け入れ体制の整備とともに、多様な保育サービスの提供が必要です。

Ⅰ 海田町の強み

- ・ 「かいたネウボラ」を核とした妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援体制（利用者との信頼関係の構築）
- ・ 待機児童数ゼロに向けた保育環境の整備
- ・ 延長保育など多様な働き方に対応した保育サービスの実績
- ・ こども家庭センターが身近にある環境（こども課・ひまわりプラザ※）

成果指標	令和6年度実績数値 (令和7年3月末時点)	目標値
保育サービス（保育所）に関する満足度	80.1%	81.0%
子育て支援（相談、教室など）に関する満足度	84.1%	85.0%
児童館・児童クラブに関する満足度	75.3%	81.0%
年少児以上の幼児教育・保育の実施率	99.9%	100%

主な取組と行動指標

(1)-③ 子育て家庭の暮らしを支える支援の充実

- 子育て家庭に対する経済的負担感の軽減を図るため、子育て支援のための各種手当や制度の周知、利用促進を図るとともに、「3つ無償化」の実現に取り組みます。

主な取組

(重) ●子育て家庭へのおむつの支給

●妊婦等包括相談支援事業・妊婦のための支援給付の一体的実施事業

後期計画における
重点事業には
(重) を記載

行動指標	令和6年度実績数値 (令和7年3月末時点)	目標値
おむつの支給率	99.6%	100%

後期計画基本方針（基本施策別重点事業一覧）

基本施策	後期計画重点事業	新たな視点
子育て支援の充実	(重点) 子育て家庭支援サービスの向上（3つの無償化）	子育て・教育
学校教育の充実	(重点) 人と地域を育む「小学校」建替計画の推進	誇りと愛着
学校教育の充実	(重点) 海田版「小中一貫教育」の推進	子育て・教育
学校教育の充実	(重点) 「海田っ子応援基金」等を活用した学びの環境改善	子育て・教育
災害復旧復興・インフラ強靱化	(重点) 町民の生命と財産を守る防災インフラの整備	安全・安心
防災・減災体制の強化	(重点) 地域における防災力の一層の強化	安全・安心
計画的な土地利用の促進	(重点) 街のランドマーク「新駅」の誘致に向けた検討の推進	誇りと愛着
健康づくりの推進	(重点) 健康寿命の延伸	健康・生きがい
高齢者、障がい者福祉の推進	(重点) 高齢者、障がい者等への相談支援体制の充実	健康・生きがい
高齢者、障がい者福祉の推進	(重点) 高齢者の活躍機会の創出	健康・生きがい
生涯学習の推進、計画の推進力	(重点) 公共施設のファシリティマネジメントの推進	賑わいと活力
環境保全と循環型社会の形成	(重点) 3Rによるごみ減量化の推進	安全・安心
地域活動と多様な担い手によるまちづくり	(重点) 共感と参加をテーマとした広報広聴の推進	賑わいと活力
まちの魅力を活用した関係人口増加	(重点) 「西国街道」再生プロジェクトの推進	誇りと愛着
まちの魅力を活用した関係人口増加	(重点) 四季を感じる「お祭り・イベント」の通年開催	誇りと愛着
商工業の振興	(重点) 地域で頑張る「中小企業」の支援強化	賑わいと活力
商工業の振興	(重点) 魅力的な店舗の誘致	賑わいと活力

I 計画策定にあたって

II 計画策定に向けての諸分析

III 後期計画基本方針

IV 後期計画素案（別冊）

V 計画策定に係る取組と今後のプロモーション

I 計画策定にあたって

II 計画策定に向けての諸分析

III 後期計画基本方針

IV 後期計画素案（別冊）

V 計画策定に係る取組と今後のプロモーション

町長タウンミーティング (第1弾)



Town Meeting



brique rouge



kaita town



竹野内町長のタウンミーティング

まちと建築とサードプレイス

～店舗誘致がまちを変える～

日時 2025. 4/28 MON 14:00-15:00

会場 brique rouge



MOLERS

What is a Third Place?

サードプレイスとは、自分らしく過ごせる“第3の居場所”のこと。人と人がつながり、まちに自然にぎわいが生まれる場所です。

竹野内町長のタウンミーティング

まちと建築とサードプレイス

～店舗誘致がまちを変える～

海田町では今年度、第5次海田町総合計画後期計画の策定を予定しています。

これからの海田の“みらい”を考えるヒントを得るために、様々なジャンルで活躍している皆さんに町長自らお話を伺いに行くのが町長タウンミーティング。

今回は、海田市駅周辺のにぎわいづくりをテーマに、駅周辺で新たにカフェを経営するお二人になぜ海田市駅周辺を選んだのか、お二人が思う海田町のポテンシャルなどのお話を伺います。



brique rouge

新谷知紀

ホテルでパティシエとして活躍後、海田町内に DELA MER 焼き菓子店をオープン。食材とお店の雰囲気にこだわりぬいたお店は人気店となり、多くのお客さんで賑わっています。この春、2店舗目となるカフェbrique rougeがオープン。



MOLERS

三澤正明

JR 海田市駅から徒歩7分の安芸区船越に昨年11月にオープンした本屋、喫茶、アートのお店 MOLERS。本業の不動産賃貸業の傍ら、このエリアに魅力的な店主の店を誘致して暮らしたくなるまち、訪れたいまちの拠点にしたいとお店をオープン。海田町にポテンシャルを感じ、様々な企画を検討中。



海田町長

竹野内啓佑

生まれも育ちも海田の生粋のかいたっ子。自らも育った海田町に恩を返したいと令和5年に海田町長選挙に立候補し、当選。一級建築士としての行政経験を活かしながら、10年後、誰もが憧れるまちを目指し、日々奮闘中。



brique rouge



MOLERS



海田町

町長タウンミーティング(第1弾)

まちと建築とサードプレイス

竹野内町長のタウンミーティング

まちを
変える
店舗誘致が



brique rouge
新谷 知紀さん



MOLERS
三澤 正明さん



海田町長
竹野内 啓佑 町長

海田の“みらい”を考える。Cafeを経営するお二人と町長がタウンミーティング

LIVE配信 4/28 Mon 14:00-15:00

【竹野内町長のタウンミーティング】まちと建築とサードプレイス～店舗誘致がまちを変える～

テーマ1 まちと建築とサードプレイス



【竹野内町長のタウンミーティング】まちと建築とサードプレイス～店舗誘致がまちを変える～

miryoku.kaita9234

町長タウンミーティング 「まちと建築とサードプレイス～店舗誘致がまちを変える～」レポート

[印刷用ページを表示する](#) 掲載日：2025年6月23日更新 ページ番号：0041983

町長自ら出向き、これからの海田の“みらい”を考えるヒントを探る町長タウンミーティング。4月28日月曜日に訪れたのは、JR海田市駅近くにオープンしたカフェ「brique rouge」。ランチやカフェを楽しむお客様もおられる中、新谷知紀さん（DE LA MER/brique rouge店主）、三澤正明さん（三沢管財/MOLERS店主）とともに、「魅力的なまちはどうつくる？」という問いを手がかりに、海田町の未来について熱く語り合いました。



撮影：織田泰正氏

町長タウンミーティング(第2弾)

竹野内町長のタウンミーティング

安全・安心！町民のための防災トーク ～知って防災！ライフハック実践術～



海田町では今年度、第5次海田町総合計画後期計画の策定に取り組んでいます。これからの海田の“みらい”を考えるヒントを得るために、様々なジャンルで活躍している皆さんに町長自らお話を伺いに行くのが町長タウンミーティング。

今回は、今年度第2弾として、防災をテーマに平成30年豪雨災害の時に活躍した現役自衛官、消防団の方々にお話を伺います。

いざという時の役に立つライフハック実践術も教えていただきます！当日は皆さんの質問に対談者がお答えする質問コーナーもあります。



陸上自衛隊
高橋 信哉さん

海田市駐屯地の第46普通科連隊に所属し、有事に備え、日々訓練を行う。高橋さんはその第2中隊長。様々な現場での自衛官ならではの経験を垣間見れるかも。



陸上自衛隊
塩田 広治さん

20歳より消防団に入団。平成30年豪雨災害の時には、副団長として現場で活躍。現在、団長として新しい取組に挑戦中。



海田町消防団
信原 宏さん



海田町長
竹野内 啓佑

10年後、誰もが憧れるまちを目指し、日々奮闘中。おすすめの防災グッズはビスコ缶。

竹野内町長のタウンミーティングをレポート!



(テーマ)「安全・安心!町民のための防災トーク~知って防災!ライフハック実践術~」

6月8日、今年度2回目となる「町長タウンミーティング」が役場庁舎で開催されました。ゲストスピーカーに平成30年7月豪雨災害の現場に立った経歴を持つ、海田町消防団の信原団長、陸上自衛隊の高橋さん、塩田さんの3名をお迎えし、体験談や実演を通じて、参加者と防災の大切さを共有する貴重な機会となりました。



海田町消防団 信原 宏さん

20歳より消防団に入団。平成30年7月豪雨災害の時には、副団長として現場で活躍。現在、団長として新しい取組に挑戦中。

スピーカープロフィール

陸上自衛隊

高橋 信哉さん(左)・塩田 広治さん(右)

海田市駐屯地第46普通科連隊に所属。高橋さんは第2中隊長を務めるとともに有事に備え、日々訓練を行っている。

海田町長 竹野内 啓佑

10年後、誰もが憧れるまちを目指し、日々奮闘中。おすすめの防災グッズはビスコ缶。

平成30年7月豪雨災害を語り継ぐ



信原さんは当時の活動状況について、「マンションの倒木撤去、足の不自由な方の避難支援、こどもたちの通学路の土砂除去など、消防団総出で対応した」と振り返り、「被害は甚大だったが、地域の皆さんの支えに助けられた」と感謝を述べました。そして当時、ボランティアとして参加してくれた高校生のうちの2人が現在、町職員として働いているという心温まるエピソードが紹介されると、会場には笑顔が広がりました。



「自分ごと」として防災を考える

後半は「自助・共助・公助」をテーマにしたフリートークに移行。「『町は何日分の備蓄をしているのか?』とよく聞かれるが、備蓄は『避難者1日分』しかない」と町長。少しどよめいた会場の反応を受け止めながら「大規模災害が起きた時、町民全員に十分な支援物資を届けるのは現実的に難しい。だからこそ、『行政にも限界がある』ということをお伝えし、各家庭での備えをお願いしたい」と呼びかけました。

消防団の信原さんも、「自分の命は自分で守るという意識が大切。消防団でも『まず家族の安全を確認してから出勤せよ』と伝えている」と、「自助」の大切さを強調しました。

「自助という防災意識をどう広げていけばいいか」という町長の問いかけに対しては、高橋さんが「『耳たこ戦術』が有効だと思ふ」と回答。「日頃から同じことを繰り返し伝えるのが大事。一度言っただけでは人には伝わらない。『またその話?』と思われるくらいでちょうどいい」と語り、町長もうなずきながら「継続の大切さを実感しました」と応じました。

護、段ボールを使った骨折固定など、身近なものでできる応急処置に、参加者からは「なるほど!」「知らなかった!」という驚きの声が続きました。

町長も「防災は日常の延長線にあるもの」と話し、「フェーズフリー」や「ローリングストック」といった、暮らしに溶け込む備えの考え方を紹介。例えば、備蓄食として「ビスコ缶」を活用したり、水や非常食をネット通販の定期便で補充するなど、無理なく続けられる工夫を提案しました。



地域で支え合う防災へ

終盤、信原さんから「消防団の団員が不足している」という現場の切実な声も上がりました。地域の防災力を保つために、少しでも多くの方に関心を持ってほしいという思いを込めた呼びかけに、町長も「消防団に入ることは、

第3弾

KAITA Town Meeting
海田の未来
みんなで考えよう!

竹野内町長のタウンミーティング

こどもと若者の サードプレイス

—あなたらしい、ちょうどいい、そんな日々を過ごすには—

海田町では、**海田の未来を方向付ける計画づくり**（第5次海田町総合計画後期計画）に取り組んでいます。

海田の“みらい”を考えるヒントを得るため、様々なジャンルで活躍している皆さんに町長自らお話を伺いに行くのが「**町長タウンミーティング**」。

3回目となる今回は、「こどもと若者の居場所づくりに対する熱い思い」をもち、町内で歯科医院を経営する**岡本さん**（ひまわり歯科院長）と保育施設を運営する**新谷さん**（幸和学園理事長）の2人をゲストにお招きします。

「こども」「若者」「サードプレイス」をキーワードにどのような対話が展開されるのか？ご期待ください。当日はあなたの疑問に対談者が直接お答えする質問コーナーも。皆さんの声もぜひお聞かせください！



**医療法人社団湧泉会
ひまわり歯科
院長 岡本佳明さん**

院長を務める「ひまわり歯科」は、日本歯科医師会が提唱する地域支援型多機能歯科診療所の「モデル医院」。管理栄養士が常駐し、口腔ケアの観点から栄養指導を行うなど独自の取り組みも行っている。



**学校法人幸和学園
理事長 新谷耕平さん**

町内で2つの認定こども園と児童クラブを運営する学校法人「幸和学園」の理事長。この春、通信制高校の「シンギュラリティ高校」を開校。自由度の高い独自のカリキュラムで新しい教育方針を提案している。



**海田町長
竹野内 啓佑**

「10年後、誰もが憧れるまち」を目指し、日々奮闘中。ホッとできるお気に入りのサードプレイスは、屋外では癒しの空間「潮野川河川敷」、屋内では読書に没頭できる「カフェ」。

7/31 [木]

10:30 - 11:30

場所 こうわシンギュラリティ高校ひまわりプラザ 1F
(海田町南つくも町11番16号)

子育てイベントも同時開催中！駐車場も十分ありますので、気軽にお越しください。

サードプレイスとは？
家や学校・職場以外で自分らしく過ごせる「第3の居場所」のこと。リラックスできる場所は、心身の健康にとっても不可欠です。

週刊！町長ニュース（7月第4週） \ 町長タウンミーティングを実施！

印刷用ページを表示する 掲載日：2025年8月4日更新 ページ番号：0042539

今回は、「こども」「若者」「サードプレイス」をテーマにこうわシンギュラリティ高校ひまわりプラザで実施。

こどもや若者の居場所づくりに熱い思いのある、新谷さん（幸和学園理事長）+岡本さん（ひまわり歯科院長）とトークセッション！

対談の中で、街中に「芸術（アート）」といった斬新なアイデアなど今後のまちづくりのヒントも多く出されました（喜）

自分らしく過ごせる、その積み重ねによって、その場所への「愛着」が生まれていく——。そんな「まちの居場所」をドンドンつくっていけば、もっと居心地の良い町になるはず。

これまでにない機能や設えを海田町の暮らしの中につくっていければ！！

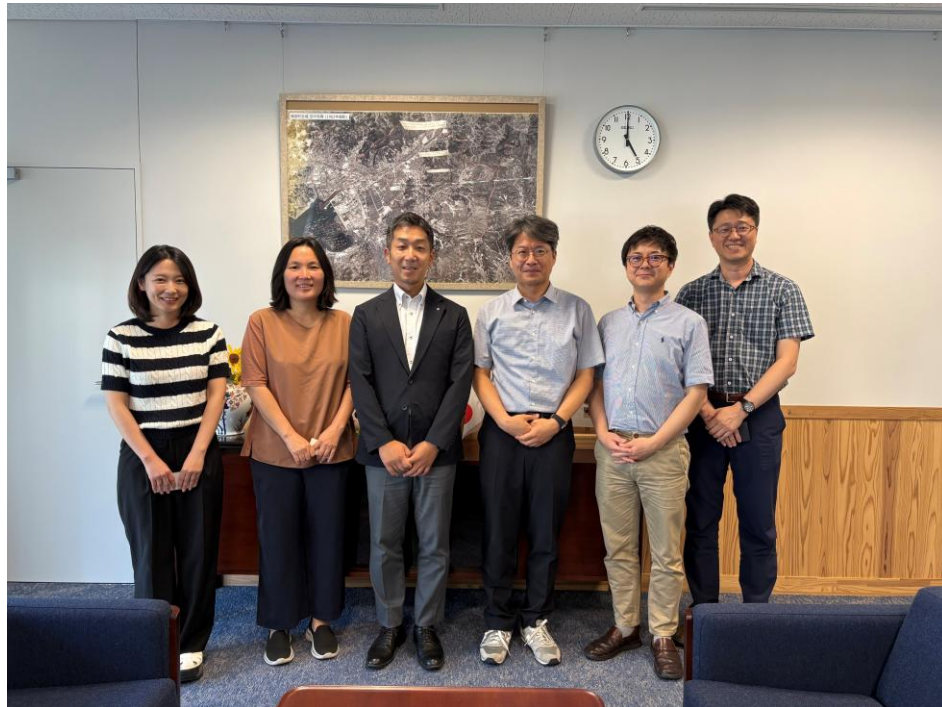


韓国国土研究院及び仁川大学視察研修及び意見交換（R7.7.30）

【視察趣旨】

- 現在、韓国の国土研究院(<https://www.krihs.re.kr/eng/>)のプロジェクトチームでは、日本の地方公共団体の政策評価システム、ならびに市民の意見の政策への反映状況に関する調査研究を進めている。

上記につき、7月の末に広島市役所および広島県庁での関係者へのヒアリングとあわせて、海田町でも、町民の皆様の声を町政にどの様に生かしているか、特にかいた未来アンケートの海田町総合計画への反映や、政策・施策のPDCAサイクルなどに関し、話を伺うもの



韓国国土研究院及び仁川大学視察研修及び意見交換（R7.7.30）

【意見交換】

- 日本の地方公共団体において、都市計画マスタープランなど個別計画については、それぞれ法的根拠がある一方で、最上位計画となる総合計画については（自治法改正により策定義務づけが廃止されたことにより）法的根拠がないことは少し疑問に思う。
- 海田町の前期計画で成果指標、行動指標あわせて225個あるというのは大変驚き。韓国の市町村レベルではそこまで設定していない。指標のPDCAサイクル実践だけで疲弊しないか少し心配。
- 海田町のアンケート分析において、年齢別、小学校区別、居住年数別でのクロス集計をしていることは理解したが、韓国の実例でいうと、性別、学歴、所得水準、車、こどもの有無などを聞いており、これらの属性がクロス集計をしたら興味深い結果が得られると思う。



人口減少対策、関係人口創出

- ・ 今後到来することが予想される本格的な人口減少局面に対応するためには、本町においても、町外への流出を抑えつつ、新たな人口獲得のための、人口減少対策、関係人口創出の取組が急務である。

ターゲット層

- ・ 人口動態を分析すると、本町では、特に20代の若者、子育て世代の転出入による社会増減が大きい。
- ・ 若者や女性にも選ばれる地域づくりをすすめ、これから居住地を探す子育て世代の人口の厚みを維持、増加させることが不可欠

シティプロモーション

- ・ 総合計画後期計画で掲げる施策を推進し、目標人口を達成するためにも、「暮らしやすさ」の様々な魅力、強みを最大限に生かしながら、「かいたブランド」を確立し、内外に積極的に発信する戦略的なシティプロモーションが必要

3つのプロモーション

アウター プロモーション

- ・ 海田町「外」に向けて、海田町の特徴を訴求していく活動
- ・ 住民の転入促進、関係人口の増加や企業誘致等を目指す。

インナー プロモーション

- ・ 海田町「内」に向けて、海田町の特徴を訴求していく活動
- ・ 町への愛着と誇り、シビックプライドの醸成の促進により、定住意向の増加、転出抑制、Uターンの拡大等を目指す。

インターナル プロモーション

- ・ 「内部組織、海田町職員」に対して海田町の特徴を訴求していく活動
- ・ 職員のモチベーションのアップ、離職の防止、職員に対して目指すべきまちの姿の共有・浸透を図る。

これまでの取組と今後の展開

R6

組織改編により令和6年度から「かいたブランド課」を設置
ブランドイメージの向上、町の魅力発信、PRをミッションとし、旧千葉家住宅250年記念事業の盛り上げ等に取り組む。

R7

後期計画策定、町PRブック（概要版）作成及び統一的なデザインの確立
ブランドロゴ・メッセージの策定
統一的なデザインに基づく町ホームページ、町広報紙等の見直しの取組

R8

後期計画に基づくまちづくりの推進
定住人口、関係人口の増加につながるプロモーションの展開
（仮案）町制施行70周年記念事業×昭和100年プロジェクト etc.



（ロゴ出典：内閣官房「昭和100年」関連施策推進室）

まちの魅力発信・PRの展開

町ホームページ

- ・ アウタープロモーションのメインツールとして。
- ・ 「海田町の日常」をテーマとした写真の使用、ビジュアルの統一化等「見たい・目に留まる」ページに。



広報紙

- ・ インナープロモーションのメインツールとして。
- ・ 行政情報の掲載だけでなく、参加型企画などを通して住民とのつながり、コミュニティの活性化を図る。
- ・ 「読みたい・手に取りたい」広報紙に向けた紙面の充実を図る。



SNS

- ・ 広報紙の補完（紙面には掲載できないリアルタイムの情報、動画、写真）
- ・ UGC（ユーザー作成コンテンツ）の活用による住民参加、まちのファン増加につながる取組

四季を通じたお祭りや様々な仕掛け

- ・ 町制70周年記念事業によるイベント展開による誇りと愛着の醸成（仮案）
- ・ アート×地域活性化

